



第 181 回 学長定例記者会見 お知らせ事項 3

令和 7 年 7 月 25 日

日本で初めての全国学生ウェルビーイング実態調査を実施 ーハーバード大学などと連携ー

広島大学ウェルビーイング推進室（室長：川合紀宗・教授）は、誰もが充実感と幸福感をもって活躍できる持続可能な社会の実現に貢献することを目的に、2023 年 4 月に設置されたダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）推進機構の一部門として活動しています。

このたび同推進室は、国内の複数大学およびハーバード大学リー・カム・ジョン健康幸福センターと連携し、日本初となる全国規模の学生ウェルビーイング実態調査を実施しました。対象は全国の大学・短大・専門学校に在籍する学生 1,000 人で、2025 年 2 月から 3 月にかけてオンラインで調査を行いました。

ウェルビーイングは、病気がないだけでなく、身体的・心理的・社会的に良好な状態で、自らの人生に意味を見出し前向きに生きられることを指します。本調査は、学生支援の質の向上や大学サービスの改善、そして日本の高等教育における制度設計の再検討に資することを目的として、学業、経済、身体、心理、人間関係の 5 つの側面に加え、抑うつ傾向、生活満足度、性格特性、支援制度の利用実態などを多角的に把握しました。

調査結果の概要は以下および別紙のとおりです。

【学業面、経済面、心理面のウェルビーイングに懸念】

- 学業面と経済面のウェルビーイングに問題を抱えている（「低い」「とても低い」）と回答した学生がそれぞれ 30.7%と 30.6%いる。
- 23%の回答者が様々な程度のうつ病の症状を訴えており、そのうち 6%の回答者はうつ病と診断される基準を完全に満たしていた。

【停滞する支援サービスの利用】

- ウェルビーイングに関する悩みを所属機関の教職員に相談したことがあると答えた学生は 12.3%にとどまった。
- 所属機関で提供される支援サービスを「役立つ」と評価する回答者が 33.6%いた一方で、25%の回答者は支援サービスを利用することに困難を感じていた。
- 支援サービスの利用が進まない背景には、支援を受けることへの心理的抵抗感や、「誰も自分の悩みを理解してくれないのではないか」という不安が含まれていた。

こうした結果を受けて、広島大学ウェルビーイング推進室は今後、ウェルビーイングに関する知識や技能を習得したと認定された学生が、同じ学生の立場から相談や支援を行う仕組みを整備する予定です。この新しい支援体制は、学生同士の関係性を基盤とし、相互扶助の観点からより気軽に支援を利用できる環境の整備を目指しています。

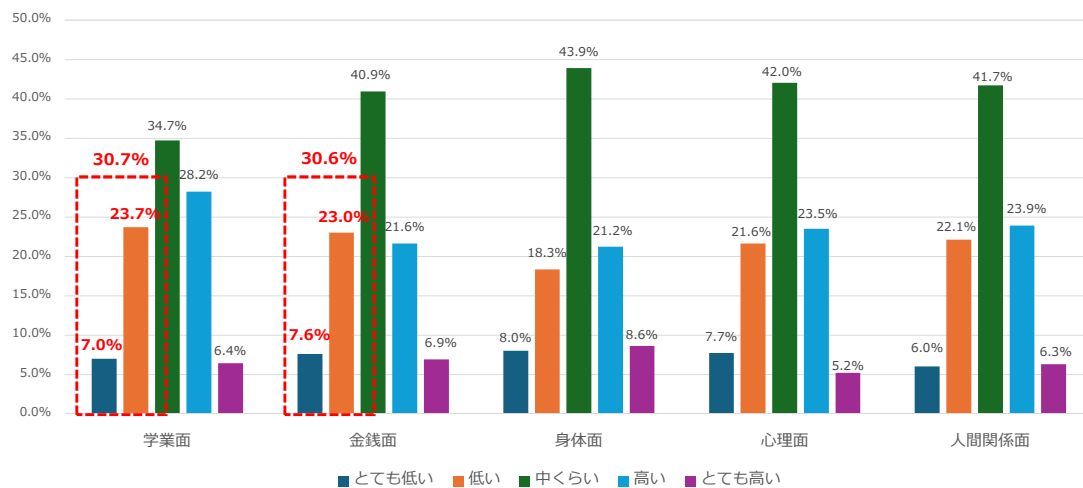
※ウェルビーイングとは…

個人の主観的な幸福感や満足感（主観的ウェルビーイング）と、自己成長、目的意識、良好な人間関係といった心理的・社会的側面（心理的ウェルビーイング）を含む、多面的で統合的な概念です。この概念は、単なる心身の健康や経済的安定にとどまらず、人生に意味やつながりを見出しながら、持続的に「よりよく生きる」ことを支える枠組みとして位置づけられています。現代社会においては、教育・保健・福祉・地域づくりなどさまざまな領域で、個人の内的な力と社会環境との相互作用をとらえる視点として、ウェルビーイングの重要性がますます高まっています。

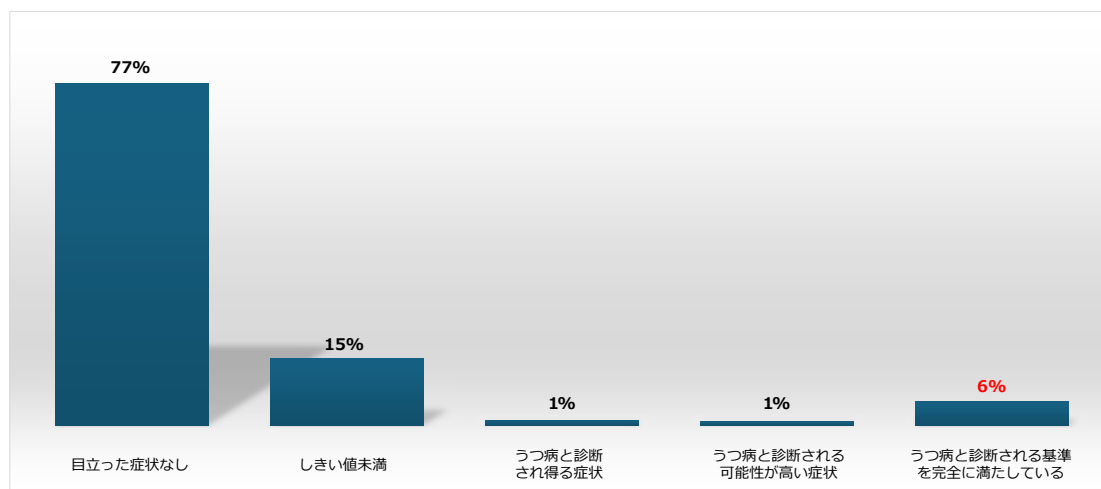
【お問い合わせ先】

広島大学ダイバーシティ & インクルージョン推進機構 ウェルビーイング推進室 TEL: 082-424-7952 FAX: 082-424-3480 E-mail: d-and-i-wellbeing@hiroshima-u.ac.jp
--

学業面と金銭面のウェルビーイングに問題を抱えている回答者 30.7%と30.6%



6%の回答者がうつ病と診断される基準を完全に満たしている



25%の回答者が所属機関で提供される支援サービスの利用に困難を感じている

